

まおい学びのさと小学校 沿革

～自由な小学校づくり、民主教育運動の歩み～

- 1986 年 **新しい教育・学校をめざす研究会**（通称「**新教研**」鈴木秀一氏が発起人）が発足し、詰め込み学習、管理教育とは違う、子どもたちが自ら探求し学び合う学校教育のあり方を模索した。『北の大地に自由と協同の学び舎』を構想し、点数評価をせず「自律と発見・創造」の教育をめざす。学校認可運動で、事業計画、資金形成、地域自治体への発信を展開。
- 1991 年 **新教研は北海道自由が丘学園をつくる会**に発展。
いわゆる「市民立」の学校をめざし『自由が丘ヒューマン・トラスト運動』を展開。市民と共に、地域と共に、多様なスタッフに支援され、中高一貫学校設立に向かう。
- 1995 年 組織は北海道自由が丘学園設立委員会となり、夕張市の廃校舎で認可前プレスクールとして中学校の開校を模索。
- 1997 年 夕張市と協定書（廃校舎の無償貸与）締結。
- 1998 年 **認可前中学校「プレスクール」開校**。初年は生徒たちの宿舎として公営住宅を借り、翌年自前の寄宿舎を確保。生活からの学びを重視し、若いスタッフが住み込みで奮闘した。
無学年、異年齢の学びの意味を大事にし、体験的総合型学習を柱とし、演劇・美術・新聞の表現活動、生き方や地域を大事にする科目人間科、北海道科を設定した。
『地域に開かれた学校、実験学校、自由と協同』（鈴木秀一氏）の実践を標榜し、様々なリソースを生かすために学校を地域に開放し、研究者や学生の実習の場としても生かされた。
- 2003 年～ 組織は札幌月寒の地に施設を入手し教育運動を継続、自由が丘月寒クールを展開。
NPO 法人北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会となる。（フリースクールを志向する札幌自由が丘学園は別組織となる。）さらに 2013 年には**認定 NPO 法人**へ発展。
教育大釧路校、札幌校、文教大・北大・北海学園大学などの実習・研究活動を継続しつつ、子ども達への学習支援活動、教育運動を展開してきた。
- 2015 年 鈴木秀一北大名誉教授の遺志を残されたメンバーが引き継ぐ。
- 2016 年～ 新教研発足からの一員で認定 NPO 法人理事でもある細田孝哉が、代表理事の吉野正敏氏に相談。
新たに「北海道に『自由な小学校』をつくる会」として学校づくりの活動を始める。
- 2018 年 支援者の進言で SNS を活用し、活動が加速し、札幌市近郊自治体へ廃校舎の活用を打診。
- 2019 年 5 月 北海道長沼町の北長沼小学校校舎無償貸与と設置計画申請予定を発表。
9 月末 北海道庁総務部学事課に最初の学校設置計画を申請（資金不足等で申請取り下げ）。
- 2020 年 この頃からコロナ感染広がる。感染予防策をとりつつ、学校づくり運動を継続。
9 月末 北海道庁総務部学事課に 2 度目の学校設置計画を申請（翌年 2 月に不承となる）。
10 月「北海道に自由な小学校をつくる会」を「**NPO 法人まおい学びのさと**」に発展させる。
- 2021 年 2 月 NPO 法人まおい学びのさとは、背水の陣で 3 度目の学校設置計画申請をすると確認。
9 月末 北海道庁総務部学事課に学校設置計画を 3 度目の申請。
11 月 北海道私立学校審議会で、学校設置計画了承。
- 2022 年 旧北長沼小学校校舎にて開校準備始まる。学校づくり、教育運動を継続。
春から秋にかけて 7 回の「まおいプレプロジェクト」（就学希望児童の体験会）を実施。
9 月末 北海道庁総務部学事課に学校法人・小学校設立認可を申請。
11 月 北海道私立学校審議会で、**学校法人設立・小学校設立認可**なる。
- 2023 年 入学希望児童募集、選考。
4 月 **まおい学びのさと小学校開校**。「開校・入学を祝うつどい」が実施される。